

陽の里

発行 平成28年4月15日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.127

40

サンビレッジ新生苑 創立40周年記念



専務理事 今村あおい 理事長 今村 寧 名誉理事長 石原美智子 常務理事 太田澄子

40年の時の流れ

社会福祉法人 新生会

理事長 今村 寧

社会福祉法人新生会が創立され、サンビレッジ新生苑がこの岐阜県揖斐郡池田町に形となつて40年が経ちました。しかしその構想はさらに数年さかのぼり、初代理事長・二代目理事長による場所や昼夜を問わない理想郷への語りが、日々繰り返されていきました。その思いが徐々に現実のものとなり、この世に姿を現したのが40年前となります。

私も幼少ながらサンビレッジ新生苑が造られていく姿を目の当たりにし、その時の前理事長たちの嬉しそうな顔をよく覚えていきます。それまでの慣習にとらわれず、気持ち若返る服装を着てもらい、医食同源であり自前の厨房でその健康を支え、全室南向きにおいても問題にならぬよう排気システムを開発するなど、衣食住すべてに配慮したことを語られたことも当時の良き思い出になっています。

次は仏像に魂を入れるがごとき過程がソフト作りです。当時日本は特別養護老人ホームの創成期であり、お手本となるところが見つかりませんでした。そこで世界でも介護先進国であるオーストラリアに白羽の矢が立ちました。オーストラリアへの毎年の職員研修を実施し、理想とする介護を伝えるのではなく感じてもらうことを行ってきました。

すべてが順風満帆ではなく、あるところまで達成できてもまたしばらくすると戻るといったこともありましたが、それでも新生会は確実にその土台を重ね一步一步成長してきました。職員の努力と周囲からのサポートがあり、オーストラリアにも引けを取らぬところまでやってきたように思います。

世界にも類を見ない少子高齢化の日本において、これからは手本のない道を進まなくてはならなくなっています。基本に立ち返り、いつまでも色あせることのない創立時の思いをしっかりと胸に刻み、制度に惑わされることなく現場に基づいた福祉を築き上げていくことで、次は新生会が手本となるよう研鑽を重ねていきます。

祝辞



岐阜県知事

古田 肇

社会福祉法人新生会様におかれては、設立40周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。これまで40年の長きにわたり県内の高齢者福祉の推進に多大な貢献をされてこられましたことに深く敬意を表する次第であります。

県全体の高齢化も急速に進んでおり、高齢者が要介護となつても可能な限り住み慣れた地域で、その人の有する能力に応じ、その人らしい自立した日常生活を続けられるよう、医療、介護、福祉、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取り組みを進めることが重要となっております。

社会福祉法人新生会様におか

れましては、関連事業所と連携をはかり、これまでも短時間訪問サービスの普及など在宅介護の充実にも多大な貢献をされてこられました。今後も長い歴史の中で蓄積された経験と築き上げた実績のもとで、地域に根ざした高齢者福祉の拠点としての役割を充分果たされるようご期待申し上げます。

県におきましても、「清流の国ぎふ」づくりを基本目標とし、「安心して暮らせる岐阜県」の実現のため福祉人材の育成・確保も含めた高齢者福祉を推進・支援してまいりますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、社会福祉法人新生会様の益々のご活躍と関係各位のご健勝を祈念いたしましてお祝いの言葉とします。

祝辞

パントリー。パピクニック'89基金
理事

糸見 惇

新生会「創立40周年」おめでとうございます。

つい最近まで私はこの会について何も知りませんでした。偶然に知ったのは一枚のクリスマスカードからです。

45年前、私は日本を離れハンガリーに住まいを移しました。カンヌ映画祭で知り合ったハンガリーの映画監督と結婚する事になったからです。

結婚して18年後、夫は映画界を去って政治家になりました。そして長い間ハンガリー日本友好議員連盟の会長を務めました。日本から政治家の先生を始め色々なお客様がハンガリーを訪問されるとそのつど私と夫は国会議事堂でお迎えしました。

10年前岐阜県のハンガリー友好協会の一行がハンガリーを訪れました。その中にいた一人の女性がどういう事か毎年クリスマスカードを送ってくれるようになりしました。そして私はお返しの手紙を書き送りました。毎年、二人の女性の間でカードが行ったり来たりしていたのです。

2014年、彼女から届いたクリスマスカードには引越しましたと書いて

家の写真が入っていました。写真の下の方には住所が、岐阜県揖斐郡池田町宮地とありました。ハッとしました。戦後私たち4人姉妹は母と一緒に満州から引き揚げてきました。そして最初に落ち着いた場所が母の里である揖斐の養基村という所でした。その村で私は6年を過ごしました。宮地にはドングリや栗を拾いに行った思い出があったのです。早速に思い出を綴って彼女に返事をしました。

それからは時空が一気に駆け巡って2015年の春にはもう岐阜にいました。昨年は3回も岐阜通いです。新しいスタイルのホーム、彼女の考えが集まった各施設、それに素晴らしい人材の豊富さを見学させてもらい驚きと感心でいっぱい。地球上から満州という名も養基村もなくなつた今、故郷が無いという私に故郷を再発見させてくれたクリスマスカードの彼女。

不思議な縁で出会って今では大切な友人の一人、石原美智子さん！これから素晴らしい経営者ぶりを発揮してください。

創立40周年、本当におめでとうございます。

新生会創立40周年に寄せて



一般社団法人
医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
(元・厚生労働省老健局長)

中村 秀一

新生会の創立40周年、誠に
おめでとうございます。

新生会が事業を開始された当
時のわが国は、65歳以上人口は
886万人、高齢化率79%で、まさ
に高齢化の入り口にありました。
特別養護老人ホームは全国で539
施設、定員は4.1万人に過ぎませ
んでした(1975年)。今日の
わが国は、高齢者数は3384
万人、高齢化率26.7%とまさに超
高齢社会となりました(201
5年)。特別養護老人ホームは6
754施設、定員は476万人に達
しています(2013年)。

新生会は最初の10年は「措置
制度の時代」、次の10年間は「ゴー
ルドプランの時代」、2000年
以降は「介護保険の時代」を歩
んで来られました。国の制度・
政策は変遷を重ねましたが、新生

会は発足当初から高い理念を掲
げられ、介護の専門性に徹底的
にこだわりながら事業を展開さ
れてきました。

今日、施設完結型から地域完
結型への転換、地域包括ケアシス
テムの構築が叫ばれています。が、
新生会は、新生メディアカルとも
に、その実現のために実践を重ね
てきた先駆者だと思えます。

私は、羽田澄子監督作品の「安
心して老いるために」のスクリー
ン上で、最初に新生会に巡り合い、
以後、新生会の歩みをつぶさに拝
見することができました。政策
立案者として非常な幸運に恵ま
れました。

新生会が、50周年、さらにそ
の先に向けて一層の進化を遂げら
れますことを期待いたします。

40年の意味



一般財団法人
高齢者住宅財団理事長

高橋 紘士

介護の仕事というものの^{かさ}軽
重が問われるこの時代において、
新生会が積み上げてきた40年は、
なにより介護というものが、かけ
がえのない人生を支えるための大
きな営みであるということを発信
し続けてきた歴史でもある。

新生会および関連事業体が運
営するさまざまなケア拠点は時
代の要請に応えつつ、創立者今村
勲が定めた①老人を大切にす。
②老人に生き甲斐を與える。③こ
の世に老人の極楽を作る。④一般
の人に老後の不安をなくす。⑤寝
たきり老人、認知症老人を持つ
家庭の苦を除く。という五つの使
命を実現すべく展開してきた。
法人の理念は「他人の痛みを自
分のこととして感ずる感性と人が
等しく生きていくことの福祉観を
基本として」とされている。
果たして、未曾有の超高齢化

社会である40年後の今日、わた
くし達の社会はこのような創立者
の理念に相応しい姿が実現されて
いるのであろうか。

新生会の40年の歩みは、まさに
高齢者を軽んじ、介護を軽んじて
きた風潮へのチャレンジの歴史で
あった。なによりも、事業展開を
みると、時代の最先端の事業を展
開するとともに、これを支える人
材の育成にも力を注いできた。そ
の中心に創立者の理念をうけつ
ぎ、展開した「利用者の尊厳と自
立」という価値が据えられている。
「介護とは何か、介護をよりよ
きものにした」と考えた時に、
「まず新生会での実践を尋ねなさ
い」と答えることができる内実を
積み上げてきた。

この実績が次世代に受け継が
れていくことを確信し、40周年の
お祝いのごとばとしたい。

西 暦	月	サンビレッジ 日本の福祉関連事項 一般史
一九七六 (昭和五二)	四月十五日	今村勲を理事長としてサンビレッジ新生苑創立 開苑式(定員100名) 在宅独居老人を招待し、食事会 台風17号で長良川が決壊 石原施設長就任
一九七八	九月 八月 一月一日	機関紙「陽の里」第一号発行 ボランティアコーディネーター配置 在宅老人調査を行う
一九七九	一月 四月 八月	「いこいの家」(売店・喫茶兼茶室) 開店 増床(全110床) 在宅老人のための入浴サービス開始 職員のオーストラリア研修始まる シヨートステイ開始
一九八〇	四月	徘徊老人のデイサービス開始 県の許可で苑単独シヨートステイ発足
一九八一	四月	毎日ボランティア誕生
一九八二	七月 二月	ホテル・ニュージャパン火事 老人保健法制定
一九八三	八月 十月	訪問看護を独自に始める ボランティアスクール開校 介護者教室独自に開く
一九八四	十一月	「私のオーストラリア」発行 痴呆老人が安心して暮らせる町づくり推進委員会発足 県下初の障害者専用列車「ひまわり号」が走る 迷い老人の保護で池田町有線放送と連携 日航機墜落
一九八五 (昭和六〇)	十一月 二月 八月	新生苑創立10周年記念式典 「現世に老人の極楽を(10年の歩み)」発行 「生きてよかった」発行 男女雇用機会均等法施行 老人保健法改正
一九八七	三月 四月	デイサービスセンター開設 認知症専用棟すずらん完成(130床) 社会福祉士及び介護福祉士法 他施設と姉妹提携を結ぶ。その後「コアラ会」となる
一九八八		



▲創立者 今村勲

私達の使命 「理念」語り継がれる

40年の思い 「現在」、そして「未来」へ

《私達の使命》

- 老人を大切にする
- 老人に生き甲斐を與える
- この世に老人の極楽を作る
- 一般の人に老後の不安をなくす
- 寝たきり老人、
痴呆性老人を持つ家庭の苦を除く

注) 当時の使命をそのまま記載

《法人理念》

他人の痛みを自分のこととして感じる
感性と、人が等しく生きてゆくことの
福祉観を基本として

《福祉サービスの要は

「人」いつの時代も人財づくり》

1976年、岐阜県揖斐郡池田町にサンビレッジ新生苑が開設し40年、私たちは常に「人財育成」に力を入れてきました。当時は「措置」の時代、施設の入所は行政が決定「尊厳」や「自立支援」という概念も希薄でした。その時代から「質」にこだわり、当事者の痛みを理解しようと、採用された職員は皆「おむつ体験」「車椅子体験」「入浴体験」を行ってきました。働く側の都合ではなく、相手の立場を考える風



一九八九 (平成元)	二月 四月	昭和天皇の「大喪の礼」行われる 消費税スタート ゴールドプラン制定
一九九〇	七月 九月 十月	「安心して老いるために」公開 東西ドイツ統一 新生苑創立15周年記念式典
一九九一	四月	「あったかい手と手」発行 在宅介護支援センター開設 配食サービス開始 オーストラリアのQECと姉妹提携する ソ連崩壊
一九九二	七月 四月 九月十七日	石原理事長就任(施設長兼務) サンビレッジ新生苑創立者・今村勲前理事長死去 毛利さんスペースシャトルで宇宙飛行
一九九三 (平成五)	九月 一月 六月 十二月	苑内保育たんぽぽ保育園開設 皇太子と小和田雅子さん御成婚 厚生省のモデル事業として自由契約特養 「今村勲記念館」開設(全160床) 老人訪問看護ステーション開設 障害者基本法 新ゴールドプラン制定
一九九四	一月 三月 七月	阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件 女性宇宙飛行士向井千秋さん誕生 サービス評価委員会発足
一九九五	四月	障害者プラン発表
一九九六	四月一日	新生苑創立20記念式典 「太陽の村から」発行
一九九七	四月 八月 十二月 二月	サンビレッジ福祉専門学校開校 薬害エイズ HIV訴訟和解 「痴呆性老人の生活対応マニュアル施設編」発行 E型デイサービスセンター新設 厨房増改築
	二月 四月 四月 九月	英国で世界初のクローン羊誕生 「ケアプランなるほどヒント集」発行 消費税5%にアップ 聖女マザーテレサ死去



土づくりを行う事で、介助にかかわる職員が「ありがとうございました」と自然に言葉が発せられるようになりました。他人に介助を任せることの痛みを体験から職員が感じたからです。

1979年オーストラリアとの出会い。「オムツをしていない」「寝たきりがいない」その現実を目の当たりにし、毎年1名の職員が3ヶ月同じ思いを共有する為にオーストラリア研修(海外研修)をスタートしました。その思いは現代に引き継がれ、昨年は数名がオランダ研修に参加しています。

1996年、豊かな人財を社会と共有したいと、「サンビレッジ国際医療福祉専門学校」を開校、2002年までに「介護福祉学科」「作業療法学科」「言語聴覚学科」が開設し、本年度で20周年を迎えます。現場と一体となった教育は、学生の心を動かし、巣立った学生は今社会の中で大きな役割を果たしています。高齢者の増加、働き手の減少、人手不足が多く、産業で叫びますが、現状を嘆くのではなく、「豊かな発想」を生む「チャンス(機会)」と捉え人財を育てることが私たちのこだわりです。

《選べる》ことが豊かさの証・

さまざまなお住まい方の提案

1993年、当時の厚生省のモデル事業として自由契約型特養「今村勲記念館」を全室個室で開設しました。当時も有料老人ホームはありましたが、社会福祉法人は「貧しい人」を対象というイメージが強く、入所施設を選



一九九八 (平成一〇)	二月 七月 九月	長野で冬季オリンピック開催 サンビレッジ国際医療福祉専門学校校名変更 QEC最高経営責任者マイケル・スカーレット氏来苑 OJT研修始める 東西の一、二階にサロンを増築 臓器移植法による初の脳死移植実施 揖斐広域ケアマネジメントセンター受託 赤いポストを施設内に設置 ゴールドプラン21策定 介護保険制度の導入 制服を私服化する 電子手帳導入とオンライン化する ・ユニット式デイセンター「あじさいの家」開設 シドニー五輪女子マラソンで高橋尚子選手が金メダル グループホーム「木もれびの家」(定員6名) 開設 すずらん棟でユニットケア「なごみ」開始 新生苑創立25周年記念式典 「あいほぶあどりーむ」発行
一九九九	二月 十月 十一月	
二〇〇〇	四月 六月	
二〇〇一	十一月 六月	
二〇〇二	四月 四月十五日	
二〇〇三 (平成一五)	五月 四月 五月三十一日 十月九日	ふるさと福祉村「校舎のない学校」開始 「サンビレッジ宮路」開設(弥生・ちやぼぼ) 「運営独立方式」を導入、 一施設に二施設長体制をとる 「サンヒルズヴィラ・アンキーノ」開設 小規模多機能「もやいの家藤代」「もやいの家市橋」開設 障害者自立支援法施行 新潟県中越地震 グループホーム「もやいの家泉」開設 介護保険法の一部改正 「サンビレッジ大垣」開設 新生苑創立30周年記念式典 「尊厳を支えるケアをめざして」発行 認知症デイサービス「もやいの家津村」開設 アクセスメントケアサービス(モデル事業) 「コスモスの家」開設(ユニット型個室)
二〇〇四	七月一日 三月五日 四月	
二〇〇五	六月 十月二十二日	
二〇〇六	四月	
二〇〇七	七月 四月 五月	



択することが出来ない時代に今村勲記念館は利用される方が自ら入りたい施設を選択できる施設として開設し、その7年後介護保険が創設され、「措置制度」(入居を行政が決定する)から「契約制度」(入居を自らが決定する)へと大きく転換しました。措置時代は「措置費」として施設は運営されていきましたので、自由に選択できる施設には「措置費」は適用されず入居費用が高額になることから「福祉」が高額サービスを行うことがまだまだ社会に受け入れられない時代でもありました。現代、私たちがホテルを選択するように、車を選択するように、住まいの選択肢は多様化しました。

2003年には全国初の戸建て有料老人ホーム「サンヒルズ・ヴィラ・アンキーノ」が開設、その後、大垣市・岐阜市・瑞穂市に多様な住まいの選択肢を整備しました。

2012年には池田町にリハビリセンター白鳥を開設し、ここでも全国初の「個室型多床室」の新たな選択肢を提案しています。費用は「多床室」設えは「個室」、安価な料金で選択できる個室の提案です。福祉の語源は「幸せ」「豊かさ」です。利用される方が自らに合う豊かなライフスタイルが選択できるようこれからも新たな選択肢の提案を続けて行きます。

制度のみに縛られずに「人」に合わせたサービスに挑戦する

1979年、在宅で一人暮らしをしている方や老夫婦で生活してみえる方の困りごとを、池



二〇〇七	六月	チューリップ東側の個室への改修工事 「岐阜シティ・タワー43」
二〇〇八	五月	「サンビレッジ岐阜」開設 「終りよければすべてよし」公開 介護保険法・老人福祉法二部改正 トータルサポートセンター開始
(平成二〇)	四月	「ケアサポートセンターつづみ」開始 ランドリーサービス開始
二〇〇九	三月	「あつたかい手と手」DVD化 短時間巡回型訪問介護開始(モデル事業)
二〇一〇	九月	サンビレッジ福祉フェアをサンビレッジ校で開催
二〇一〇	十一月	「陽の里めぐり」DVD完成
二〇一一	三月	「東日本大震災(東北地方太平洋沖地震) 「もやいの家瑞穂」開設
二〇一一	三月三十一日	石原美智子名誉理事長就任 今村寧理事長就任
二〇一一	三月三十一日	新生苑創立35周年記念式典
二〇一一	四月十七日	「私のヨーヨー・マ」発行
二〇一一	九月一日	「サンビレッジ瑞穂」開設 ライフサービス始まる
二〇一一	十一月	「リハビリセンター白鳥」開設
二〇一二	三月三十一日	「サンビレッジほづみ駅前」開設 雲上快晴天道童子除幕式 (サンビレッジ岐阜5周年祭)
二〇一三	四月	「IPS細胞」で山中伸弥氏がノーベル生理学・医学賞受賞 消費税8%にアップ
(平成二五)	九月	二〇二〇年東京オリンピックピック開催決定
二〇一四	十一月	新生グループ語録カレンダー
二〇一四	二月	「しんせい語録」発行
二〇一四	三月	「あいはぶあどりוםアゲイン」発行
二〇一四	三月	サンビレッジ新生苑改修工事完了
二〇一四	十月	「青色LED」で赤崎勇・天野浩・中村修二の三氏が ノーベル物理学賞を共同受賞
二〇一五	七月	中庭外構改修工事開始
二〇一六	四月十六日	新生苑創立40周年記念式典 サンビレッジ新生苑中庭リニューアル、紫陽花ホール完成 サンビレッジ国際医療福祉専門学校20周年サンビレッジ大垣10周年



田町と共に「在宅老人調査」を実施し、その実態から1979年8月に在宅老人の為の入浴サービス(現在のデイサービスでの入浴)、1980年には在宅老人のお泊りサービス(現シヨーステイ)1983年には訪問看護サービスを開始しました。其々制度があるのではなく「人」を観て必要なサービスを、在宅生活に困難さを感じている方に開放してきました。

その「人」に合わせたサービス提案は現代にも脈々と引き継がれ、厚生労働省からのモデル事業や未来志向事業として数々の制度提案を継続しています。

又新生グループで歩みを共にする株式会社新生メディカルでは、「岐阜県方式」として、短時間の訪問サービス身体0コードを現在の介護保険制度に提唱し、同時に「介護・ラ針盤」の提案を行い、在宅生活を継続する為に支援者に関わる全ての職種が共通の課題を認識できるアクセスメントツールの開発を行いました。

NPO法人「校舎のない学校」では、介護保険制度のみでは支えきれない在宅生活を「プロの住民」を育成しライフサポーターとして派遣する「ライフサポーター」の仕組みを手掛けています。

それぞれの地域における課題を地域住民と共に把握し「人」に合わせてサービスを開発して行く、その先にあるものが制度に繋がって行くこと、常に「人」が先にあるサービスであり続けるための挑戦をこれからも続けて行きたいと思えます。



夢の実現



社会福祉法人 新生会

名誉理事長

石原美智子

40周年を迎えるにあたって、改めて来（こ）し方を振り返ってみました。

今ある新生会の種は、昭和40年代に蒔かれています。初代理事長で当時の新生病院長と病院スタッフであった私は、夜ごと居間の炬燵の中で夢を語り合っていました。

父は言いました。「往診に行つて寝たきりの年寄りに注射を1本打つたからといって歩けるようになるわけじゃない。オムツの中が気持ちよくなるわけでもない。嫁さんも家事や子育て、その上パートに出てこれ以上は無理や。何かいい方法はないもんだらうか?」。

それから数年、私たちは海外の事情も視察し、夢は広がりました。私は夢を単に語っているに過ぎませんでした。父は厳しい山を1歩1歩登っていき、遂に昭和51年4月15日に社会福祉法人で特別養護老人ホームを創



▲昭和47年 夢を語りあった頃 (写真は新生病院の正面で)

り上げました。

私の山登りはその後から始まりました。昭和53年に繋ぎの施設長として1年の約束で行きましたが、今に至りませんでした。

施設長時代も理事長時代も常に利用者、職員にそして社会のために何をどのようにするのが最も適切かを考え、父と語り合つた夢の実現を目指しました。

1年として同じ年はありませんでした。いつも何かより良くなるために改善をしたり学んだり実践に移したりしました。

現在では池田町だけではなく大垣、瑞穂、岐阜にも事業が展開されていますが、すべての事業には目的がはっきりとしていてストーリーがあります。池田の個室型多床室や瑞穂の合体型ユニット、岐阜のホテル仕様などは全国に此処にしかないものです。これらは国の制度ではなく、利用者や職員の立場にたつて考えた結果行きついた発想です。

現理事長がスタッフと共に作成したサンビ語録の第1日目は、「現場に神宿る」です。利用者や職員がいる現場にこそ問題解決のためのヒントがあります。

夢の実現は、足元のしっかりした土づくりにこそあるのです。



▲平成28年、喜寿の祝いを新生グループ管理者全員で

「語録」

「常に現場を振り返る」

サンビレッジ岐阜総管理者 奥堀 恵

年末になると、岐阜に某会社の日めくりカレンダーが届きます。職員に問いかけてみると、トイレにあるそのカレンダーの言葉は、感動する時あり、反省して次は頑張ろうと思う時ありと読む側の心を動かす力があるらしく結構人気だと言うのです。どうも押しつけではなく自分で気づくことがいいようです。新生会の運営会議で話題にしたところ、そのような語録なら新生会でも作ってみようということになり、語録委員会が立ち上がりました。当時、新生会では、次々と拠点が増えてどの職場にも新人が多く、理念を伝えていくことの難しさが課題となっていました。早速、各部署、学校、新生メディカルから語録委員が集まり、どのようなものにするかを話し合いました。次に、これまで新生会が出版した書籍の言葉や、受け継がれてきた言葉を集め、31の語録を選出。挿し絵は、各部署選抜職員に依頼するなど手作りで出来上が



▲リニューアルした「しんせい語録」

りました。

その後、各職場では日めくりカレンダー、機関紙「陽の里」ではしんせい語録「読み解き」コーナー、部署会議ではグループワークをするなど幅広く活用されています。昨年の新生メディカルの実践発表会では、事例を語録でまとめるというユニークなものもありました。また今回は40周年記念に向けて、語録や挿し絵を見直し、表紙は40年の歴史を振り返る新旧の写真を並べるなどリニューアルしました。

現在、新生グループでは初代理事長始め当時の職員の方々の理念を受け継ぎ、その業績は様々な形で発展をし、実を結んでいます。今年、入社26年目を迎えた私ですが、現場でひとり落ち込んだ時、こつそり背中を押してくれたのは、受け継がれてきた新生会の言葉であったような気がします。また、仲間同士では「説得より納得」「現場に神宿る」など共通言語を語り、励ましあつて歩んできました。「語録」は、経験年数の違いや立場により、当然理解の相違があるでしょう。しかし、これからも現場の実践を振り返るツールとして活用し、みんなに新しい時代の介護にチャレンジして行きましょう。



▲日めくりカレンダーとしてご利用ください。

祝 創立四十周年 寄せ書き

(五十音順)

創設者 今村監理事長の越え思い。石原美智子名誉理事長の長きにわたる先達の、革新
的な事業の数々。そして若き清新な今村理事長への大きな期待。そして職員皆さまの
強い連帯心と真摯な仕事への姿勢。

これらがあいまって日本の福祉の先導的役割を担ってこられた新生会の40周年を感謝
をこめてお祝い申し上げます。

政経も経済も社会も大きな曲り角に立っている日本で石原名誉理事長の「命を使い切る
人生」を万人が達成できるよう、次の50周年に向けて心よりエールを送ります。

社会福祉法人さくらくえん 理事長 市川 禮子

創立四十周年、誠にありがとうございます

貴会に預かれたは、常に安心して暮らせる

地域社会実現にご尽力いただいておりますことに

感謝申し上げます。今後、貴会の変更なる

ご発展をお祈り致します。池田町長

岡崎 和久

創立四十周年 誠におめでとうございます。

四十年前にスタートされた素晴らしい理念が、いま花開き地域に
大きく受け入れられています。本格的な高齢化社会を迎えました。

これからの十年先、二十年先、さらにその先へと、
いつまでも頼りにしています。サンビレッジさんを。

池田町民生児童委員協議会

会長 竹中 行雄

祝 創立四十周年

今もなお変わりゆく時代の流れの先頭に立ち続け 福祉 介護
医療の各分野で 地域社会の支えになってこられた新生会様の
益々のご発展を心よりお祈り申し上げます

池田町議会議長 岩谷 真海

創立四十周年 おめでとうございます。

地域福祉の発展のためにご尽力いただきありがとうございます。

また子どもたちをお導きいただきありがとうございます。深く

感謝申し上げます。これからもますますご活躍され

ますことをお祈り申し上げます。

池田町教育長 国枝 磨須美

創立四十周年、誠におめでとうございます。

日本を代表する社会福祉法人の一つとして、また、模範法人
として、これからも進むべき方向を示してください。

今後、より一層のご発展を心からお祈りします。

社会福祉法人ノテ福祉会

理事長 村馬 徳昭

トピックス

祝 サンビ校20周年



サンビ校は今からちょうど20年前に誕生しました。人が何らかのハンディキャップを持って、日常生活の質を落とさず暮らし続けられるよう、どう支援するかを学ぶ学校です。本校教育の目的は、何と云っても、「現場で役に立つ介護職・リハビリ職」を養成することにあります。知識や技術、資格があっても人間力がなければ対人援助の仕事はできません。

ご利用者のからだところの痛みを感じ取る感性をどう身に付けばいいのでしょうか？ 人が等しく生きていくことをどう学ばいいのでしょうか？ サンビ校は、そのために、学校が必要と判断した教育内容と方法を積極的に授業の中に取り入れてきました。その最大のものが徹底的に現場にこだわることです。現場でプロとして通用する力を学生自身がつかみ取れるよう、現場という真剣勝負の場が豊富に用意されてきました。だから、職員と並んでご利用者はかけがえのない先生です。卒業式にはご利用者が列席され、卒業生に、はなむけの言葉を贈られます。

来る6月25日には、午前中から学校講堂で20周年を祝う記念式典とパーティーを行います。1部の式典に続いて、2部では各学科の卒業生が現在の活動について報告・発表を行います。3部では卒業生主催の懇親パーティーが盛大に行われる予定です。同窓生、在校生、関係者が一堂に会し、来し方を振り返りつつ今後の夢・今後の挑戦を語り合う、そんな素敵なお会になりそうです。同窓生の皆さん、ぜひおいでください！

祝 サンビレッジ大垣開設10周年



サンビレッジ新生苑が開設30周年を迎えた春、大垣市北方町にサンビレッジ大垣が産声を上げました。サンビレッジ大垣は内閣府の構造改革特区の認定を受け、整備されたサテライト型特別養護老人ホームです。サテライト型特養は本体施設（新生苑）があり、本体施設と密接な連携を図りつつ、別の場所で運営される施設のことです。

私たちは制度に人を合わせるのではなく、利用者一人ひとりのニーズを充足することを大切にしています。サンビレッジ大垣では、通い、泊まり、暮らしの各サービスを緩やかに繋ぎ、認知症に伴う環境変化に伴う混乱の軽減や居場所・役割作りを行っています。

また、介護保険制度ではサポート出来ないご自宅での非日常的な生活の困り事（草取り、ゴミだし、病院への受診同行等）に対して、制度外サービスとしてライフサポート事業の立ち上げ、運営にも関わって参りました。

こうした日々の実践が自らの力として蓄積されるばかりではなく、多くの方々から信頼を得、様々な形でのご協力をいただけることに繋がってきております。

少子高齢社会はますます進展していく中、これからも自らが提供するサービスの質の向上を図りながら、地域福祉の貢献に努めて参ります。

